

## インタラクティブなデータ分析& グラフ出力WEBサイト構築の実際

S-PLUS Enterprise Server  
概説と実装技術

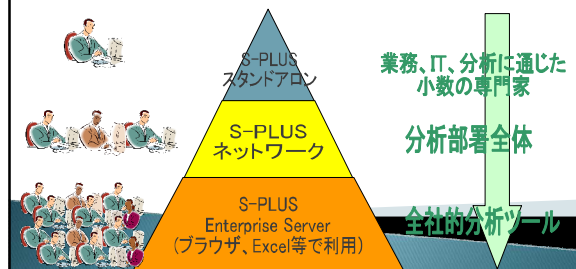
## クラウドの普及と利点

- ▶ データ処理用CPUはサーバを使う
  - シンクライアント(携帯端末含む)でもOK
- ▶ データは基本的にサーバ上
  - 機密性のあるデータなら安全
  - データベース接続によりさらに便利に(データの更新含む)
- ▶ どこからでも同じように利用可能
- ▶ 利用者の手間は激減
  - 自らインストールや更新を行う必要がない

## S-PLUS Enterprise Server

- ▶ より一般向けのサービス
  - 自分でカスタマイズするユーザではなく、いろいろな角度から**定型レポート**を閲覧したいユーザ向け
- ▶ クラウドにデータ分析サービスを置く
- ▶ エンジンはS-PLUS

## S-PLUS Enterprise Serverの ターゲットユーザ



## S-PLUS Enterprise Server デモンストレーション

## S-PLUS Enterprise Serverだと 何が良いのか？

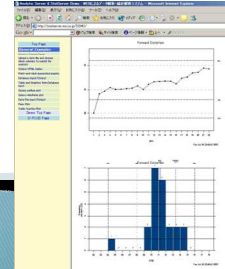
- ▶ S-PLUSの解析機能がほとんど利用できる
  - 他ソフトウェアに無い、高度で最新の解析機能
  - データのインポート/加工機能も高い
- ▶ 高品質のグラフ出力
  - 定評あるS-PLUSのグラフィックス
  - カスタマイズ能力も高い
- ▶ 保守性が高い
  - 分析系サーバは、追加/改善要求が出やすい
  - S-PLUS関数を変更することで対応可能

## S-PLUS Enterprise Serverが 向く業務

- ▶ データが定型フォーマット
  - 内容だけ日々変化する
  - 政府統計、株式市場データ、同一製品を製造する品質管理データ、取り扱い商品がさほど変動しない売上データなど
  - 教育用でも可
- ▶ グラフに凝りたい
- ▶ 潜在利用者が多数

## S-PLUS Enterprise Serverの 適用業務(1)

- ▶ 製造業の品質管理
- ▶ 様々なQC手法が、S-PLUSで簡単に実装可能
- ▶ QCチャートも充実



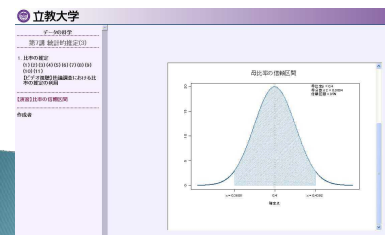
## S-PLUS Enterprise Serverの 適用業務(2)

- ▶ 売上データ等の集計・分析システム
- ▶ エリア毎、商品毎など、ドリルダウン&グラフ化
- ▶ 自動バッチ処理で負荷軽減



## S-PLUS Enterprise Serverの 適用業務(3)

- ▶ E-Learning
- ▶ WEB上でデータの解析実習が可能
- ▶ 自分のPCにソフトをインストールする必要なし



## S-PLUSは使えるが、 自社内でWEBサーバ構築まで出来ない場合

- ▶ 数理システムで受託構築が可能(一部or全部)
  - システム設計
  - データ解析方法コンサルティング
  - データベース接続、データインポート
  - WEBサーバ構築
  - S-PLUS手法の実装(ユーザカスタマイズ含む)

## S-PLUS Enterprise Server ライセンス

- ▶ Production Server (PS)
  - ライセンスはCPU毎
  - 同時セッション数には制約はない
  - 分析専用サーバ向け
- ▶ Production Session (PSESS)
  - ライセンスは同時利用セッション毎
  - CPU数に制約はない
  - 多数のサービスが相乗りした大規模サーバ向け